

第6回 福祉助け合い活動交流会 報告

“助けられたり・助けたり” みんなでつくる福祉のまち ～生協が地域とともにできること～

開催日：2011年1月28日（金） 10:30～15:00

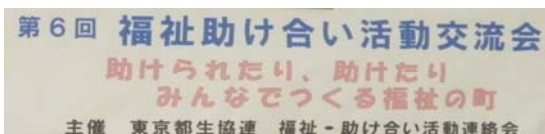
会場：東京都生協連会館

主催：東京都生協連 福祉・助け合い活動連絡会

参加：132名

福祉・助け合い活動交流会は今年、6年目を迎えました。これまでの交流会では、地域生協、医療生協の組合員が行なっている福祉助け合い活動をお互いに紹介しあい、学びあう交流をしてきました。

今年は東京の生協がめざす福祉のまちづくりの方針に沿って、これまでの活動を基礎にしながら「まちづくり」をテーマに開催しました。私たちひとりひとりが地域で支えあうまちづくりをめざし、社会福祉協議会の役割を学び、住民相互の助け合いと行政との連携の方法を探りました。また、これから豊かな活動展開をするためにワークショップでそれぞれの活動を交流しながら、いつまでも住み続けられる理想のまちづくりをみんなで考えあいました。



◆開会の挨拶 岡村英則さん（東京保健生協）

交流会開始にあたって、福祉・助け合い活動連絡会メンバーの岡村さんより参加者の皆さんへ二つの提案がされました。

一つ目は、「この街にずっと住み続けたい」、住み慣れた街で安心して暮らし続けることはみんなの願いです。その願いを叶えるためには、今こそ地域生協と医療生協の出番だと言うこと。二つ目は、去年NHKの「無縁社会」と言う番組をご覧になった方もいると思いますが、生協は地域でいろんなネットワークを持っています。その生協の力と自治体、地域の方とネットワークを結んでひとりぼっちや孤独死といった問題を解決していきましょう。目黒区や地域生協でも見守り活動の実践がはじまっています。今日、参加された方々にはぜひ、地域に帰って自分の出来ることを考えていただき「ずっと住み続けられる街」の実現につなげたいと思います。



◆学習 「社会福祉協議会ってどんなトコ？」

講師：正木 茂氏（杉並区社会福祉協議会・ささえあい係）

高齢者を取り巻く課題や社会福祉協議会のコンセプト、役割について具体的な実例を含めながらのお話と所在不明高齢者問題を受けての対策やタイガーマスクの出現から見える社会貢献のあり方について楽しくお話を伺い、これから生協が地域と共に出来る事を考える学習になりました。

「ささえあう地域づくりが仕事です」

★主な仕事は…

- ・住民の方々の福祉活動の支援
- ・ボランティア活動の推進
- ・福祉サービスの情報収集や権利擁護

具体的には…

- ・一緒にやろう!を投げかける
- ・区民と共にすすめる
- ・小さい事を見過ごさない
- ・ボランティア教育
- ・行政支援

つながって…

別々に動いていたら何も変わらない・変えられない

- ☆生協どうしがつながって新しい活動を生み出す
- ☆ミッションの違う団体とつながることは難しいけれど生協の枠からはみ出したつながりも大切。

タイガーマスクの出現は、ひとつの社会貢献のあり方、自分に出来ることの表現の一つ

新たな取り組み…

ちょっとしたボランティアを検討中！暮らしの中で困っている事を助ける。声かけのつながりだけでなく、もう一歩踏み込んで暮らしの中に入った手助けを検討。

◆報告

1. 東京の生協がめざす 一人ぼっちにしないまちづくり～杉並地域の実践から～

報告者：岩崎 初音さん（東都生協・福祉まちづくり・杉並メンバー）

2008年11月、東京都生協連理事会で確認された答申に基づき、2009年より検討チームが設置され具体化に向けて検討を進め、3つの地域をモデル地域（杉並区・北区・練馬区）とし、杉並区では、2010年4月から会の名称を「福祉のまちづくり・杉並」とし4つの地域生協と1つの医療生協が集まって杉並地域における福祉のまちづくりについて問題意識を出し合いながら話し合い行なっていることの報告がありました。

「福祉のまちづくり・杉並」では“ひとりぼっちにしない”をテーマに生協が出来ること、組合員、区民の出来ることを考え合っています。



毎日、たくさん走っている生協の配送車を活用して見守りをしよう！

誰もが気軽に集えるサロンやたまり場を作っていこう。

2. 自治体によってちがいはあるの？ 調査活動「行政の高齢者サービス調べ」

報告者：高沢 恵子さん（東京ほくと医療生協・福祉助け合い活動連絡会メンバー）

福祉助け合い連絡会では、第6回交流会に向けて、誰もが住み続けることのできる町、助けたり、助けられたり出来る町づくりのためにメンバーが住む町の行政サービスを知る事、参加者にも自分の住む町の行政サービスを知るきっかけ作りを目的に調査をし報告をしました。

7つの自治体のサービス調査の結果を報告。皆さんも是非、自分の住む町のサービスを調べてみましょう。



参加者からは

- ・他区の様々なサービスを知り、自分のところでも調べてみたいと思います。
- ・行政サービスの内容は自治体によって違いがある事が分かり大変参考になりました。
- ・行政サービスのレベルアップは「住民提案と意見が必要なのか」と思います。
- ・詳しく調べてあり、ゆっくり読んでわが町に足りないところを行政に要望したいと思いました。

◆分散会…ワークショップ「このまちにずっと住み続けたい」

ファシリテーター：池田智子さん（コープとうきょう・福祉助け合い連絡会メンバー）

2004年には65歳以上は19.5%だった人口比率が、2015年には高齢化率は26.0%、2050年には35.7%と3人に一人が高齢者になるといわれています。そんな超高齢化社会を迎えようとしています。みんなの共通の願いは誰もが住みなれた町にずっと住み続けること。ひとりひとりが生きがいを持ち暮らし続けるにはこんな町だったらいいね！ それぞれが行なっている活動を持ち寄りながらみんなが描く理想のまちを創り上げ、模造紙に書いて発表しました。



ファシリテーター池田さん



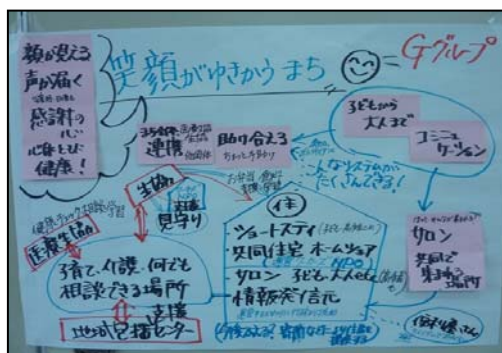
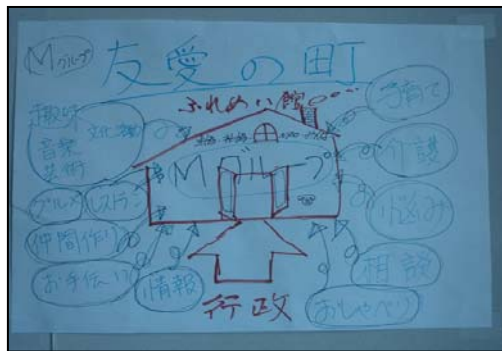
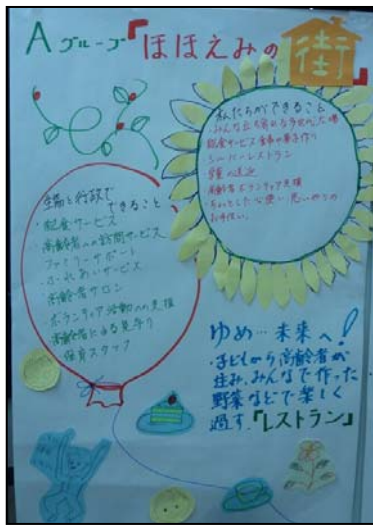
ラベルにはみんなの思いやアイデアがいっぱい！

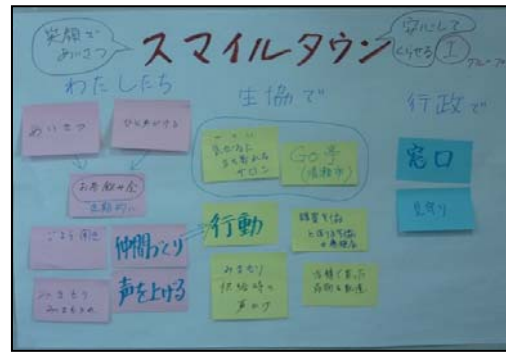
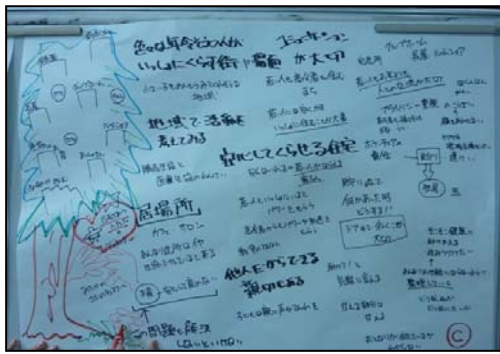
活発に意見を出し合った
ワークショップ



ひとりひとりが行なっている活動を出し合いました。

みんなのアイデアが詰まった理想のまち ～こんなまちに住み続けたい～





◆参加者アンケートより

【学習について】

- ・今まで漠然としか知らなかった社協、大事な役割だと分かった。
- ・行政で出来ないような細かい事をやるのが社会福祉協議会だと言われて“ナルホド”と思いました。手を繋ぎ合って行きたいと思います。
- ・色々聞かせて頂き、これからもお役に立てるよう頑張りたいと思います。

【報告について】

- ・江東区でも行政サービスを調べてみたいと思います。多分、まだまだ知らないことが多いと感じました。
- ・杉並での取り組み、又、行政サービスが地域により違いがある事がはっきり理解でき、自分の地域も調べてみようと思う。
- ・杉並の活動は素晴らしいと思った。私たちも今後おおいに頑張りたいです。

【ワークショップについて】

- ・生協として福祉への参加、取り組み意欲が分かり、生協組合員として嬉しかった。自分も何が出来るか考えさせられた。
- ・他生協の方との交流を通して日頃のそれぞれの活動も知ることが出来ました。
- ・イメージとして考えるのにはとても良かったと思います。多くの人の前向きな気持ちを感じられて力になりました。次のステップの具体的な協力、援助活動などの企画についても生協どうし横断してどんどん進めていきたいですね。

◆まとめ

当日は10会員生協から、132名の参加があり、誰も住みやすいまちづくりをテーマに、社会福祉協議会の役割について学びました。午後の分散会では、それぞれの行なっている活動や行政の高齢者サービス調べ、学習会で学んだ事をもとにずっと住み続けられるまちづくりについて話し合うことでこれからの活動の参考になる交流会になりました。